

【重要文化財】札幌市時計台を電気火災から守る 放電検出ユニット（スパークテクト）が採用

日東工業株式会社（本社：愛知県長久手市、取締役社長 黒野 透、以下 日東工業）の「放電検出ユニット（スパークテクト）」が、このたび、国の重要文化財に指定されている札幌時計台（正式名称：旧札幌農学校演武場）（札幌市）に採用されました。

札幌時計台は、クラーク博士の提言により、中央講堂として1878年（明治11年）に建設され、長年にわたり札幌の街の歩みと市民生活の変化を見守ってきました。近年、文化財の火災報道が続く中、「文化庁管轄の重要施設への防災対策として、新しい技術を取り入れていきたい」という札幌市市民文化局の想いで、「放電検出ユニット（スパークテクト）」が設置されました。

設置された「放電検出ユニット（スパークテクト）」は、家屋内のコンセント部のトラッキングや壁内配線など目視が困難な箇所で発生したケーブル断線、ショート（短絡）などで発生する火花放電を当社独自技術により検出し、電気火災を未然に防止する日本初の製品です。

日東工業は、「放電検出ユニット（スパークテクト）」の普及を通して、電気火災の未然防止に取り組み、国の重要文化財に指定されている貴重な札幌時計台をはじめ、歴史ある建造物などを継承していくことに貢献し、社会の安全な暮らしのサポートを進めていきます。

■設置内容

設置機器：放電検出ユニット（スパークテクト）

設置場所：管理事務所



放電検出ユニット
（スパークテクト）
搭載ユニット



放電検出ユニット
（スパークテクト）



国指定重要文化財「札幌時計台」
（正式名称：旧札幌農学校演武場）



以上